



油画 道具一覧

目次

始めに購入する道具一覧 2 - 5

道具のくわしい説明や紹介 6 - 12

始めに購入する道具一覧



ハイユニ / Hi-uni
2B・B・HB・H・2H・3H・4H各一本



伊研 画用木炭 No.360



アルテージュ しんぬき



ナムラ擦筆 No.4



イージークリーナー (練り消しゴム)



ウチダ 溝線定規 60cm 型



ホルダー消しゴム



カッター

始めに購入する道具一覧



ガーゼ



紙ヤスリ #120



デッサン用スケール NO.D (木炭紙用)



ホルベイン スプレーフィキサチフ 300ml



(目玉クリップ<大> 4個



フェザーカルトン・ミューズ 木炭紙判 3,850円



パネルバッグ B2サイズ

始めに購入する道具一覧



F15号張りキャンバス 2000円程度
Work Bookのフランスパンをやる場合
: F8号張りキャンバス 600~800円程度



油絵の具 12色セット 3000~4000円程度



刷毛 (豚毛 or 水張りです使う刷毛と同じもの)
1000円程度
※大きいものもいいが、筆洗缶に入るかどうか幅に気をつける (5~7cm幅)



筆 (豚毛平筆/丸筆)
4~12号から大中小各3種類ずつ



ペインティングナイフ (中) 500円程度
※余裕があれば大と小もあるとよい



紙パレット 300円程度



絵皿 (陶器製、直径10.5cm 2枚) 200円程度
※テレピンを注いで使う。梅皿は×



テレピン (ターペンタイン)
400~1000円程度
※すぐ使い切るので250ml以上は必要



ペインティングオイル 400円程度
※小びんの55ml程度で足りる



クサカベ 超速乾メディウム 100ml
600円程度

or

どちらかを購入して下さい



ホルベイン 画用液 ラピッドメディウム
(速乾メディウム) 110ml 1500円程度
※久保木先生オススメ!

始めに購入する道具一覧



新聞紙

※床等を汚さないようにしたり、清掃につかう



拭きとり用布（古着や雑巾など）

※画面に使ったり、筆の汚れを拭き取る。

しっかりそろえたい

密閉筆洗器 2500円程度

※刷毛が入るよう中か大がよい

ブラシクリーナー ～1000円程度

※無臭のものがオススメ



+



お金を節約したい・一回限り

お金を節約したい・一回限り

ブラシクリーナー（一体型） 500円程度

※直接筆を入れて洗えるタイプ。

こちらは刷毛は入らないので注意



道具のくわしい説明や紹介

1. 油絵具

どのメーカーのものでも問題ありません。油絵具 12 色セットがあれば、とりあえず始められます。油絵具にはクサカベ・ホルベイン・マツダ・ウィンザー & ニュートンなどいろいろなメーカーがあります。12 色セットを使っていく中で、足りない色、あれば便利だと思える色を少しずつ買い足していきましょう。そして、受験のための油絵では速乾剤が必要不可欠です。乾くのは遅い油絵具を速く乾かすための道具です。同じ名前の色でも、メーカーによって微妙に感じが違います。画材屋でいろいろ見てみましょう。



ホルベイン

「ホルベイン」は油絵の具をはじめとする、多種多様な絵の具を製造している色材の総合メーカー。100 年以上の歴史を持っています。多くの画材屋で扱われており入手が容易なため、初心者の方が最初に購入する際にもおすすめです。



クサカベ

「クサカベ」は 1928 年創業の老舗人気メーカー。高品質な油絵の具を製造しています。豊富な色数があり、特に中間色の幅が広いのが特徴です。大手国内メーカーのなかでは、比較的価格が手頃なものもメリット。とりあえず色数を豊富に揃えたいと考えている方にもおすすめのメーカーです。



マツダ

「マツダ」は歴史ある日本の画材メーカーです。マツダは油絵の大家である岡鹿之助と共に研究を重ねることでハイクオリティな油絵の具を開発してきました。



ウィンザー & ニュートン

英国王室御用達に選ばれた世界が認める最高級ブランド。顔料濃度が高く、スムーズな使い心地。着色力も高く、ほとんどの色が「専門家用堅牢色」としてランクされています。



ルフラン

仏・ルフランブルジョワの油絵具が 2018 年 5 月フルリニューアル、油絵具としては世界初となる「カドミウムフリー」色も登場！18～19 世紀ごろチューブ入り油絵具が流通しだして以来、多くのアーティストに支持されてきたルフラン油絵具は、ウィンザー & ニュートンと並んで高級油絵具の代名詞です。



マイメリ「クラシコ」

「マイメリ」はイタリア発の画材メーカー。画家であった創業者のジアンニ・マイメリが、1923 年イタリア・ミラノに絵の具工場を設立したことが始まりです。マイメリの油絵の具は「顔料と油以外は何も入れない」という信念に基づいた油絵の具が製造されています。本格的に油絵を始めたい方にもおすすめです。

道具のくわしい説明や紹介

主な筆の種類（使用頻度が高いのはフィルバート）

：油絵用の筆にはさまざまな種類があります。いろんな動物の毛でできていますが、まずは**豚毛**を購入しましょう。



フィルバート MF（豚毛）

とりあえず必要な筆はこれです。どんな場面でも使いやすいスタンダードな筆。



フラット MA（豚毛）

いわゆる平筆。エッジの効いた細い線を引くときや、平らな面をきれいに塗るときに使用します。



ファン 3695（豚毛）

特殊な筆。グラデーションを作りたいときなどに使用します。ぼかしの表現をしたいときなどに使用します。



ラウンド MR（豚毛）

断面が丸い筆。
塗るよりも線を引くときに使いやすいです。



筆には大小があります。最初は上図の本数と種類を揃えると使いやすいでしょう。



ナムラ NPM（軟毛）

久保木先生オススメ！
豚毛やナイロン性よりも柔らかく筆跡を残さず描くときに役立ちます。

筆に関しては初心者が必要なものを想定して考えています。いろいろな絵を描いていく中で、この筆があればもっとこんなことができるんじゃないかな?など考えることもたくさん出てくると思います。自分のやりたいこと、やっていることにあわせて、画材屋さんで筆を選んでみましょう。

3. キャンバス

キャンバスには「張りキャンバス」と「カットキャンバス」があります。



張りキャンバス



カットキャンバス

「張りキャンバス」は木枠に固定しており、すぐに使える状態のもの。「カットキャンバス」は木枠の大きさに合わせてカットした布でしかないため木枠に張る必要があります。

最初は張りキャンバスを買い、完成したら木枠から外し、新しいカットキャンバスを張る、というのが経済的だと思います。

○キャンバスを張るために必要なもの



キャンバス張り器

大小がありますが、予備校で使う分には小さい方でいいです。



タッカー

ホッチキスのような道具です。スタックと違い、金槌が必要ないので、作業は楽。



スタックとハンマー

スタックとはキャンバスを木枠に止めるための釘。何度も使いまわすことができます。



木枠

予備校で使うのは主に F15 号。ほかに使うことがあるのは F20、F30。(F15 のほかに、P15 や M15 もあります。この F、P、M というのは縦横の比率によって違います。



カットキャンバス

カットキャンバスは、木枠の大きさに合わせて売っています。F15 号の絵を描くときは、F15 サイズのカットキャンバス（中目）を買いましょう。細目や荒目もありますが中目が一般的で安価です。

「タッカー」と「スタック」はどちらでもかまいません。使いやすい方を選びましょう。

4. 油（溶き油）

水彩絵具で使う水の役割を果たすのが、油です。油にはかなりたくさん種類がありますが、描き始めるのに必要なのはテレピンとペインティングオイルです。この2種類のオイルは性質が違います。テレピンは無色透明で水のようにしゃばしゃばしています。ペインティングオイルは黄色い液体で、水というより油のねっとり感が少しだけあります。



テレピン
(ターペンタイン)



ペインティングオイル

テレピン（ターペンタイン）はペトロールでも代用できます。2つの性質は似ているからです。ペインティングオイルは、さまざまなオイルを、あらかじめ使いやすいように調合してある便利なオイル。オイルは他にもたくさん種類があります。絵を描きながら、自分に必要と思えるオイルを見つけていくのが理想です。

オイルの使い方の基礎

油絵の描き始めにはターペンタインを使います。しゃばしゃばとした絵具でのびのびと描く。画面の中のモチーフの位置関係、だいたいどんな色にするのか、など中盤ではペトロールにペインティングオイルを多めに混ぜます。その状態で描きこみをしてゆき、終盤（もしくは中盤からでもオーケー）ペインティングオイルだけ使うこれは教科書的なオイルの使い方の一例です。

描き始め

中盤

終盤

テレピン

テレピン+ペインティングオイル

ペインティングオイル

STSRT

FINISH

7. パレット

パレットには紙でできた使い捨ての紙パレットと、木でできた手入れをすればずっと使える木製パレットの2種類があります。好きな方を使いましょう。



紙パレット

ノートのようにめくることができ、使い捨てができるので、手入れの手間がありません。



木製のパレット

ほとんど一生使えますが、きちんと手入れをしないと使いにくくなっていきます。

道具のくわしい説明や紹介

5. とき皿・油壺

「とき皿」は多めの絵具を作るとき、またはオイルの入れ物として使います。「油壺」はパレットに取り付けて使います。



とき皿（絵皿）

水っぽい絵具を多めに使いたいときなどここに絵具をたくさん作ります。



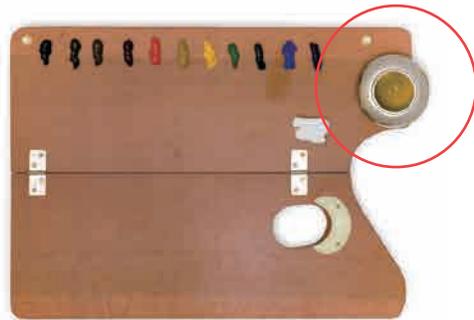
油壺

油壺に使いたいオイルを少量入れて必要ときに筆先にオイルを含ませます

油壺の取り付け方



クリップで取り付け。



自分が使いやすい位置に付ける。

6. ブラシクリーナーと筆洗器

油絵の壺は、使用後に洗わずに放っておくとカチカチに固まってしまう、使用することができなくなります。絵を描いた後は、専用のブラシクリーナーできれいに洗いましょう。



ブラシクリーナー

油絵具の汚れを落とすための専用の液体です。小さいほうの容器は筆洗器も兼ねています。



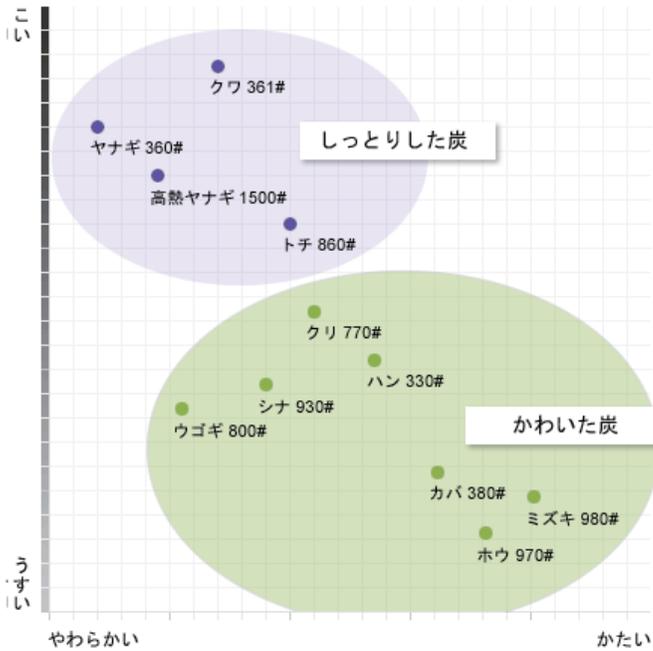
密閉筆洗器

小さいブラシクリーナーの容器は筆洗器としても使えますので、必ずしも必要ではありませんが、大きい筆を洗うときなどはこれがある方が便利です。ここにクリーナーの液体をためて使います。

筆の洗い方

- ① 筆の汚れを布などできれい拭き取る。
- ② ブラシクリーナーの中に筆をつけてさらに汚れを落とします。
- ③ きれいな布などで筆を拭いておく。

画用木炭の種類



画用木炭には、様々な種類があります。

- ヤナギ炭：柔らかくて濃いバランスの良い代表的な炭
- 高熱ヤナギ炭：高熱処理をしたシャープさが加わった炭
- クワ炭：やや腰のあるしっとりとした濃い炭
- ハンノキ炭：やや乾いた感じの淡色の炭
- カバノキ炭：しっかりと手応えのある淡い炭
- クリ炭：やや硬い乾いた炭
- ウコギ炭：柔らかくて軽い淡色の炭
- トチノキ炭：ねばりのある濃い炭
- シナノキ炭：きめ細かい柔らかな炭
- ホオノキ炭：硬くシャープな淡い炭

クワ炭



伊研 画用木炭 No.200 (ヤナギ・太) 1本入
：ハッキリとしていて力強く、乾いたカラッとした調子



伊研 画用木炭 No.360 (ヤナギ・中) 3本入
：中位の太さで、柔らかい木炭。しっとりした調子が出しやすい。



伊研 画用木炭 No.220 (ヤナギ・中太) 2本入
：200番と360番の間みたいな木炭



伊研 画用木炭 No.830 (ヤナギ・細) 20本入
：200番と360番の間みたいな木炭

道具のくわしい説明や紹介



伊研 画用木炭 No.600 (ヤナギ・中細) 50 本入
：軟らかくて濃いバランスの良い代表的な木炭



伊研 画用木炭 No.1800 太 5 本入



伊研 画用木炭 No.1600 中 6 本入



伊研 画用木炭 No.1500 細 10 本入

No.1800、1600、1500 (ヤナギ高熱処理)
：普通のヤナギの木炭より少し硬く、押さえた調子が出しやすい。

ミズキ炭



伊研 画用木炭 No.980 (ミズキ・細) 20 本入
：細く、かなり硬い木炭。芯はないため、そのまま削って使用可。他の木炭と比べると鉛筆の発色にも似てる。明るさや白っぽい部分を繊細に描きたい時や、描き込みに向いているが、書き出しには向かない。

クワ炭



伊研 画用木炭 No.860 (トチノキ・丸軸) 3 本入
：クワは木炭の中では一番黒く濃い調子が出せる。